

名詞格変化表

		男単	女単	中単	複
主	～が	i	e	aa	iwa
属	～の	e	u	ii	uyan
与	～に	in	an	on	ohon
対	～を	u	a	o	oraa
奪	～より等	in	ote	aaru	ohon
呼	～よ	∅	eba	aba	∅
於	～において	in	orin	aaru	ohon

※形容詞も被修飾語と同様に活用

人称代名詞格変化表

		私	あなた	彼	彼女	我々	あなた方	彼ら
主	～が	nenosi	moi	sa	usa	yogasi	kunari	yaa
属	～の	nere	moro	sara	usara	yogara	kuniro	yaara
与	～に	nesu	mosu	sasu	usasu	yogasu	kunesu	yasu
対	～を	nene	mono	sana	usana	yogana	kunai	yana
奪	～より等	nente	moete	sehete	usetete	yogohote	kuhote	yohote

「彼ら」を中性単数形として用いることで、「彼または彼女」という意味になる。

指示代名詞活用表

		これ/この	それ/その	あれ/あの	何	誰	どれ/どの
主	～が	ro	a	ya	ka	kusa	ko
属	～の					kere	
与	～に					kesu	
対	～を					kane	
奪	～より等					kesu	

場所代名詞

		ここ	こ/あそ	どこ
主	～が	rotte	atte	kotte
属	～の	robu	abu	kobu
与	～に	robu	abu	kobu
対	～を	robau	abau	kobau
奪	～より等	rotte	atte	kotte
於	～において	noron	noan	nokan

現在形	e	a	i	aru
過去形	ase			aruse
未来形	ane			arune
不定形	∅			
連体形	∅-			
過去連体形	us-			
命令形	ima			

※未来形の用法について

未来形は

- ・推量された未来
- ・意志・勧誘

等、不確かな未来時制のみを表す。未来について断言する場合は現在形を使う。

※連体形に現在時制・未来時制の区別はない。

※規則動詞にはⅠ型とⅡ型が存在する。Ⅰ型は語幹に上表の活用語尾を接続するのみである。

Ⅱ型は「不定形の最後の母音」が「活用語尾の最初の子音」によってアプラウト（母音交替）する。変化の規則は次の通り：

不定形の最後の母音	活用語尾の最初の子音	母音変化
	a	a
陽母音	i	i
a,i,e	u	i
	e	e
	a	o
陰母音	i	u
u,o	u	u
	e	o

Ⅱ型規則動詞の例：

	1	2	3	pl
現在形	gen-e	gan-a	gin-i	gan-arū
過去形	gan-ase			gan-aruse
未来形	gan-ane			gan-arune
不定形	gen			
連体形	gin-			
過去連体形	gin-us-			
命令形	gin-ima			

	1	2	3	pl
現在形	nes-e	nas-a	nis-i	nas-arū
過去形	nas-ase			nas-aruse
未来形	nas-ane			nas-arune
不定形	nis			
連体形	nis-			
過去連体形	nis-us-			
命令形	nis-ima			

来る

	1	2	3	pl
現在形	nor-e	nor-a	nur-i	nor-aru
過去形	nor-ase			nor-aruse
未来形	nor-ane			nor-arune
不定形	nor			
連体形	nur-			
過去連体形	nur-us-			
命令形	nur-ima			

ある、いる

	1	2	3	pl
現在形	der-e	dar-a	dir-i	dar-aru
過去形	dar-ase			dar-aruse
未来形	dar-ane			dar-arune
不定形	der			
連体形	dir-			
過去連体形	dir-us-			
命令形	dir-ima			

～になる、～される

	1	2	3	pl
現在形	kes-e	kas-a	kis-i	kas-aru
過去形	kas-ase			kas-aruse
未来形	kas-ane			kas-arune
不定形	kes			
連体形	kis-			
過去連体形	kis-us-			
命令形	kis-ima			

切る

	1	2	3	pl
現在形	ew-e	aw-a	iw-i	aw-aru
過去形	aw-ase			aw-aruse
未来形	aw-ane			aw-arune
不定形	aw			
連体形	iw-			
過去連体形	iw-us-			
命令形	iw-ima			

知っている

	1	2	3	pl
現在形	ton-e	ton-a	tun-i	ton-aru
過去形	ton-ase			ton-aruse
未来形	ton-ane			ton-arune
不定形	tun			
連体形	tun-			
過去連体形	tun-us-			
命令形	tun-ima			

以下の六つの動詞、およびその派生語は不規則に活用する。

～である (コンピュータ)

	1	2	3	pl
現在形	ara	da	iru	mete
過去形	dasu			rase
未来形	yanu			yanan
不定形	der			
連体形	der-			
過去連体形	deras-			
命令形	der			

する (代動詞)

	1	2	3	pl
現在形	bu	bu	bi	baru
過去形	basu			birusa
未来形	ban			baran
不定形	bo			
連体形	bor-			
過去連体形	bos-			
命令形	bo			

言う (～という内容を)

	1	2	3	pl
現在形	ootē	oota	ooti	ootaru
過去形	ootose			ootorasi
未来形	ootane			ootorasi
不定形	oot			
連体形	ootus-			
過去連体形	ootunus-			
命令形	ootima			

喋る (内容に関わらず、発話という行為自体)

	1	2	3	pl
現在形	moithe	mootha	moothi	mootharu
過去形	mari			marasi
未来形	mathane			matharani
不定形	matth			
連体形	matthus-			
過去連体形	mathunus-			
命令形	mattha			

見る

	一単	二単	三単	複
現在形	re	ra	ri	raru
過去形	rase			raruse
未来形	rane			rarune
不定形	ru			
連体形	r-			
過去連体形	rus-			
命令形	rima			

歩く

	一単	二単	三単	複
現在形	tote	tota	toti	totaru
過去形	totase			totaruse
未来形	totane			totarune
不定形	tot			
連体形	tote-			
過去連体形	totos-			
命令形	totema			

凡例：V=母音 C=子音 N=撥音

音節構造：

V

CV

VC

CVC

※語末に子音がある場合、直前の母音と同じ母音が挿入される。 附則2

子音結合規則

原則 C1+C2=C2C2

例：maptoobat（不可能な）→実際の発音は「マットーバタ」

附則1 ただし、C2がhである場合、これは完全に黙字扱いとなり、C1のみが読まれる。

例：Nipponhier（日本人）→実際の発音は「ニッポニエレ」

附則2 ただし、C2がy,w以外の有声音である場合、C1はC2に対応する撥音となる。

例：girrabati（傷薬）→実際の発音は「ギンラバチ」

音韻は日本語と同様だが、注意が必要な綴り字のみ以下に特記する：

	a	i	e	u	o
ty	チャ	チ	チェ	チュ	チョ
t	タ	チ	テ	ツ	ト
th	タ	ティ	テ	トゥ	ト

	a	i	e	u	o
dy	ジャ	ジ	ジェ	ジュ	ジョ
d	ダ	ジ	デ	ズ	ド
dh	ダ	ディ	デ	ドゥ	ド

	a	i	e	u	o
h	ハ	ヒ	ヘ	フ	ホ
f	ファ	フィ	フェ	フ	フォ